平成30年度

低コストで効率的な森林整備の実践と普及

～林業の成長産業化地域創出モデル事業への支援～

網走西部森林管理署

【取組背景と課題】

○課題と対応

地域林業の成長産業化を実現するためには、森林整備等により得られた利益を森林へ還元できる仕組みづくりが重要であり、林業の効率化や作業コストの低減に向けて、国有林が実施している伐採・造林一貫作業システムやコンテナ苗の活用等の技術を地域の林業関係者へ効果的に普及していくことが必要。

【これまでの取り組み】

①低コスト化への理解の向上

民有林で実施したコンテナ苗植栽試験等に協力し、植付器具毎の作業特性等を解説するなど支援。

植栽手法等の説明

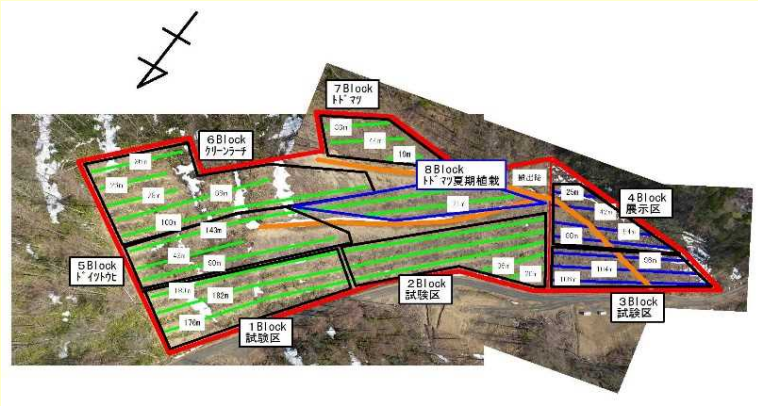
②林業の効率化に向けた支援

オホーツク総合振興局が北海道内の民有林で初めて設定した伐採・造林一貫作業システム試行現場において、助言を含む技術的な支援を実施。

【平成３０年度の取組内容と成果】

①　コンテナ苗の夏季植栽試験等

苗木の山出し期間の延長や植栽作業期間の平準化に向け、林木育種場と連携を図りつつコンテナ苗の夏季試験植栽やドイツトウヒコンテナ苗等の試験植栽を実施した。
また、その状況等について地域の林業関係者へ情報提供したことで、コンテナ苗を活用した効率的な森林整備等への理解が醸成された。



②　民有林における伐採・造林一貫作業システムの導入支援

国有林が先導的に実施している低コスト作業について、国有林で実施した現地検討会や民有林関係者との意見交換等を通じ、伐採作業で使用した重機を地拵作業へ活用するなどのメリットや、地形により重機の使用が制限されるなどのデメリットを紹介した。これらの取組により、民有林関係者の理解を得られ、オホーツク管内の民有林において**『伐採・造林一貫作業システム』が北海道で初めて導入された。**

民有林の一貫作業実行地

【今後の取組】

①　コンテナ苗の夏季植栽試験地を継続的に調査し、検証結果を地域へ共有する等、普及と定着を目指す。

②　民有林における伐採・造林一貫作業システムの導入に至った。今後は作業功程の分析などを支援し、さらなる普及と定着を目指す。

③　林業のＩＣＴ化に向けた「民国ＧＩＳ活用検討会議」を開催し、民有林と国有林が連携した効率的な森林整備等の実施を目指す。

【今後に向けて】

地域の実情に応じた森林整備の低コスト化、省力化の実践と技術の定着